

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おだやかに、なごやかに、安心して」という、運営理念のもと、重度化している利用者様も多い中、職員皆で協力し合い、安全で安心な楽しい生活が送れるように支援しています。	理念と基本方針をパンフレットに記載し家族等に分かりやすく伝えている。また、事務所内にも掲げられている。4項目からなる基本方針で職員の心得を具体的に表している。会議では日々提供しているサービスについて話し合い、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材や乳製品は地域のスーパーや牛乳屋、お米も地主から購入し交流している。日常的までは行かないが、近所の方には、年に1度の夏祭りに参加して頂いたり、野菜を頂くこともある。幼稚園や小学校との交流会も年に2回ある。	小学校のークラスが4年生から3年間継続して訪問し、ゲームや肩揉みなど入居者に喜ばれながら交流している。保育園児の訪問では手遊びや握手で入居者と触れ合っている。短大生の実習やヘルパー2級研修も受け入れている。踊りやコーラスグループ、ハーモニカやサックスの演奏、読み聞かせなど様々なボランティアが来訪している。住民から認知症の相談を受けることもあり助言や出来る範囲でのお手伝いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	臼田地区の「健康と福祉のつどい」に毎年参加して、地域の宅老所の方々と一緒に、認知症をテーマにした「寸劇」に取り組み、認知症への理解と対応を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に行われ、意見交換がありました。今年から責任者が変わり、まだ行っていません。	運営推進会議の意義を理解されており、昨年までは定期的ではなかったが開催されていた。ホーム長が年度途中から変わり、現在は次年度に向けて会議開催準備に取り組んでいる。メンバーとして家族会代表、地域代表(自治会代表、民生委員、有識者)、消防署職員、警察関係者、市関係者を予定している。	運営推進会議はホームにとっても重要な会議であるので次年度からは定期的に開催されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の関係の連絡等は取り合い関係作りはできていると思いますが、その他については、ケアサービスの取り組み等は日頃から・・・は無いです。	介護保険の更新申請の代行で担当窓口を訪問し、また、調査員が来訪した時には本人の様子を伝えている。市担当者からは法令に関することや感染症などの情報がFAX等で届けられている。これからは運営推進会議開催に向け担当者とは早々に相談の予定である。市の担当者とは顔見知りであり何時も親身になってくれている。毎月2名の介護相談員が訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の施錠以外は、鍵をかけず職員が寄り添い、見守りの姿勢を徹底している。ホーム外に出る利用者様が居たら、納得するまで一緒に行動し寄り添う。また、身体拘束はせず、見守りケア中心で取り組んでいる。	身体拘束の内容や行動制限の具体的な行為による弊害について全職員は研修や学習会で学び認識している。入居者が居心地良く、自由に生活できるよう一人ひとりのその日の状態を見極め、職員間で連携しながら拘束のない支援に努めている。外出傾向の入居者には職員がユニット間を歩き来しなはずと付き添い続けていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対に虐待はしてはいけない、あってはならないと、職員は認識し日々業務に当たっている。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議だけでは十分に時間がとれず、今後、勉強会としての時間を計画して、取り組んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に、時間をかけてしっかり説明し理解をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、面会のご家族と意見交換をしたり、また、職員間に入り、利用者に関しての、いろいろな意見を聞くように心がけています。できるだけ要望や意見は大切に、良いことは反映し実現につなげます。	入居者がテレビを見ている時やお茶の時間などで話す言葉から意向や思いを受け止め、行事やサービスに活かしている。家族会は年一回開催し、入居者、家族、職員がお互いに触れ合う機会として毎年、日帰り旅行をしている。ホーム便りには入居者の近況や職員の異動を報告し、末尾にはホームに対する意見等を何う旨を載せている。家族等からの意見・要望は検討し運営やサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で具体的な意見交換はありますが、日頃から、さまざまな意見に耳を傾け、ホームの向上に繋げたいと心がけています。	月1回の職員会議(19時から2時間余り)には全職員が出席し、日々のケアの振り返りや議題に沿った意見交換が行われている。活発に話し合いを行い、意思統一を図っている。緊急案件がある場合にはその都度、ミニ会議を開き検討している。管理者は時々、個別に職員に声をかけて入居者のことを確認したり時には個人的な相談を受けることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員と時給労働者との格差がありすぎではないかと思う。もう少し一人ひとりを評価してほしいと思う。と意見あり。何とか、きちんとした休憩時間の確保に努めたいが、現状では難しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会はあるが、個人での参加を勧めるのは難しい。法人の研修は仕事上できる範囲で参加してもらっている。業務の中での指導はしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会で、地域の会議や学習会、お互い事業所同士で職員を交換研修のチャンスを作り、サービスの質の向上に努めている。しかし、回数は少ない。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず自己紹介して、会話の中から不安材料を見つけて、慣れない環境の中で、少しでも安心していただける様な共通の情報を見つけて、笑顔で接する。相手を受け入れ、要望を引き出すように努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは、話を聞くことから始めます。利用者の状態、家族との関係、要望、困っていること、心配なこと、時間をかけてじっくり聞くこと。そして、こちらから、伝えたいことを伝え、質問や疑問点を解決し信頼関係を作る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当にこのサービスが本人にも、家族にも良い方法かを一緒に考える。他のサービスも説明し検討してもらい、一番良い方法を一緒に見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重しつつ、重度であっても声掛けや寄り添いを忘れず接し、また、自立支援できるような声かけ、待つ支援に心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちになってみる。不安を抱える家族には、足を運んで頂いたり、連絡をし様子を伝える。また、できるだけ気軽に面会に来て頂き、様子をお伝えし喜びを共有。また、遠方の家族には様子をお伝えする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人の面会があり。手紙やはがきが届くと代読し喜びを共有。外出困難な方が多くなり、馴染みの場所には行かれないが、お元気な方は家族と外出や外泊も楽しまれています。	馴染みの人達の訪問を受けたり、家族の協力を得ながら自宅や買い物に出かけている。開設7年目を迎えており入居者と職員は家族に近い間柄となり日々、和やかに暮らしている。時には近くの東屋まで出かけて馴染みの浅間山や里山を眺めながら入居者の愛唱歌を歌ったり、散歩を楽しんでいる。元入居者家族が「ここは亡き母の家のようだ」と時々来訪し懐かしんでいるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に目配り、気配りで利用者同士の関係には注意。気が合う利用者同士できるだけ触れ合えるよう、食席の位置を工夫。居室にこもらないよう、楽しく過ごせるようなレクや会話を行い支援する。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの方々は、亡くなった方が殆どですが、近くに来たから懐かしくて・・・と、気軽に訪ねてこられます。また、先月、治療目的で退所された方とは、これからも、連絡をとり、相談、支援に努めたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ本人の意向に添い、無理強いないで様子を見る。また、本人気持ちになって考える。また、少し、間を置いて関わってみる。など、工夫している。	日々の関わりの中で一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。意思表示が可能な入居者には具体的に確認したり、判断しやすい言葉掛けで意志を確認している。把握が難しい入居者に関しては家族からの情報や日頃の様子から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報の把握は大切。本人、家族、ケアマネ等から情報を。本人らしい生活の確保。また、馴染みの関係作りに、ホームに馴染んで頂くためにも、できるだけたくさん情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、また、関わりの中から、把握した情報を職員同士伝え、記録し、共通の関わりかたができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者が集まって話し合いはできていないが、家族の意見を聞いたり、それを職員の会議や日々の申し送りの中に反映したりしている。今後はきちんとした介護計画の下に実践充実させたい。	現在は本人、家族から生活に関する意向を伺い、個別の介護方針を介護計画としている。今後は個別に施設サービス計画書(1)及び(2)を作成し、評価と見直しを計画的に行う予定である。	入居者一人ひとりの意向を元に本人のための介護計画を作成し、実施状況の確認、評価、見直しに沿って行われることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護される側、介護する側、両者にとって良いことは、すぐに意見交換し実践、検討している。見直しが必要な時は記入し、その時の職員で話し合い結果を記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今は、必要性がない。今後は、必要あれば取り組んでいきたい。		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についての把握がまだ不十分なので、これから把握していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診あり。主治医との連絡は密にとっている。必要時は緊急で連絡し指示を得る。また、近隣に家族希望の総合病院があり、状況によっては、すぐに受診できるような体制である。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医が代わる場合には医師間で診療情報書と診断書で引継ぎが行われている。通院や受診に関しては緊急時を除き基本的には家族にお願いしているが、家族の都合で職員が付き添うこともある。入居者の心身状態に異常が生じた場合にはかかりつけ医や協力医療機関と連携し適切な医療が受けられるよう協力関係を講じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に対する少しの気づきでも、職場Nsに報告し指示を仰ぐようになっている。夜間の居ないときでも、電話連絡し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院したときは、随時様子を見に行ったり、必要時は洗濯物を預かったり、また、病院スタッフと情報交換している。病院から担当者会議の連絡があったら、2名で出席情報を得る。病院との関係作りは大切にしたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	殆どの方が、看取りまでと言う方向であった為、職員全員と家族でどうすべきかを話し合い支援に取り組んでいる。現在も終末期の方がいるが、家族との話し合いは出来ている。	重度化した場合(重度化した場合と終末期対応)における対応に係るホーム指針があり契約時に説明している。看取りを希望された場合、ホームでの対応が可能であれば本人が最期の日を迎えるまで安心した生活が送れるように支援することを家族に伝えている。今までに3名の方をお見送りしている。家族が数日間付き添い、他の入居者も見舞うなど職員と一緒に本人の最期までの時間を共にしている。自宅に帰る時は入居者と職員が玄関で生前本人が好きだった「ふるさと」を歌いながら見送ったという。心をこめた看取り対応にご家族から感謝の言葉が送られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回の救急法の講習会受講。しかし、さまざまな急変や事故発生時の応急手当や初期対応についての訓練は行っていない。個人差はある。どこまで理解しているかを把握する必要があった。と反省。今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、消防署員指導のもと避難訓練は行っている。地域との協力体制については再度確認の必要性を感じた。また、新しい職員への伝達も必要であった。	防災訓練は年2回昼夜想定で実施している。消防士の指導の下、夜間想定訓練が行われ入居者は職員の誘導を受けて避難している。その他、通報訓練、消火器の扱い方なども同時に行っている。2回目の訓練は昼間想定で法人本部の指導を受けながら避難訓練を行っている。スプリンクラー、自動火災報知器、火災通報装置、誘導灯、消火器など防災設備を整え、入居者の安全対策を講じている	今後、運営推進会議で地域住民の協力が得られるよう相談していくことを望みたい。

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉や反論はせず、納得してもらえ るまで傾聴している。利用者様を…さんと呼 ぶ。いつも、ありがとう、ご苦労様、などの感 謝の気持ちを伝える。心がけていきたいと思 う。	基本方針の1つ「一人ひとりの人格を尊重し、安心と尊厳 のある生活を支援します」の言葉通り、職員は入居者の ありのままを受け入れ、その人らしい尊厳のある姿を大 切にし、プライドやプライバシーを損ねない対応や言葉掛 けに努めている。馴れ合いから好ましくない言動があれば お互いに注意し合ったり、話し合いも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	なるべく自分で判断する機会を多くするよう に働きかけをしている。表現が出来ない、自己 決定が出来ない利用者様には言葉を代えて 声掛けをする。利用者様の思いや希望に添 う、否定しない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者様に合わせているが、集団 での行動も多くなる。徘徊の方は職員はそつ と見守りについていく。希望に添えないことも たびたびあります。入浴は基本的には曜日 を決めている。が、無理強いはいしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	家族が好きな服を買って来られる。外の美容 院に行く方も居る。本人希望の化粧水を購入 支援。清潔な身だしなみに心がけている。出 来ることは自分で行えるよう支援する。髭剃り や整髪、顔拭く等、支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	出来る方には、テーブル拭きや、下膳、また、 食器拭きなど手伝って頂いている。また、メ ニューの内容の説明をして、食欲を促す。ま た、出来るだけ自分で摂取できるような働きか けをしている。	キャベツの千切りの上手な入居者がいて手伝っている。 オープンキッチンであり料理のいい匂いが食堂に漂って いる。食事の準備は調理師資格のある職員が中心になり、 献立は入居者の希望も聞きながら職員が作成している。 入居者の咀嚼や嚥下状態によりキザミ、ミキサー、ト ロミなど食形態を工夫し十分な栄養が摂れる様配慮して いる。入居者と職員は同じものを一緒に食べながら会話 も楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事チェック表に記録し把握。また、職員間 でも連絡しあう。必要時は食事介助する。水分 もしっかり摂っていただく。嚥下状態や咀嚼状 態により、キザミやペースト、とろみ、減塩で利 用者に合った対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	自力で口腔ケアできる利用者様が少ないが、 なるべく自分で義歯なども磨けるような支援を している。それぞれの利用者に合わせて毎食後 行っている、		

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄できる様、定時の誘導。尿意や便意があり場所がわからずウロウロも、トイレ誘導。また、日中は布パンツ、夜間はリハパン対応。パットの汚染も少なめになるよう支援。	一人ひとりの排泄パターンや本人の素振り等を見ながら声がけや誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、野菜の多い食事内容、ヨーグルト摂取、水分摂取。散歩が出来る方は、外の散歩。寒いときはホーム内を歩行誘導。お腹のマッサージ。医師と相談し下剤の調整。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全介助の利用者様が多く、週2回の曜日を決めての入浴方法になっているが、希望しないときは他の利用者様と交代。時間に無理が無く、ゆったり入ってもらえるような方法を、今、調整中です。	日曜日以外は毎日お風呂が準備され、一日に3~4人入浴している。入浴日は一人ひとり決まっているがその日の体調や気分に変更するなど柔軟に対応している。湯船に浸かると「いい湯だ」、「気持ちいい」と自然と言葉を発しても満足しているという。菖蒲湯や柚子湯など昔からの習わしも思い出し楽しんでもらっている。ヒノキ風呂とユニットバスがあり状態に応じ利用している。重度化しつつあるのでリフトも設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるような言葉かけ。家族が添い寝をしていた利用者は側で寄り添う。入眠出来ない方は様子を見る。寝たきりの方は、寝具やクッションで圧迫してないか確認。ベッドで眠れない時はたたみで対応。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は指示通りに行われているが、副作用等、すべて利用者様の薬を理解しているかは、確認の必要あり。精神薬等症状が出やすい薬は、把握できているので、利用者の観察はできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来ることはなるべくしてもらい、出来ない所の支援に努める。居室の掃除機をかける。食器拭き。モップ賭け。歌を歌う。百人一首を読む。ゲーム。誕生日会は希望献立を提供。など、日々楽しみを支援。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な利用者様には、地域のイベントに参加(どんど焼き、イルミネーション観賞など)家族と温泉へ。また、これから暖かいので、毎日のように、ホームの周りをスタッフとみんなで一周散歩。また、近の公園散歩。イチゴ狩り。花見など支援しています	天気のいい日には外気に触れる機会を多くし気分転換を図っている。行事外出としてドライブがたら四季折々の彩を求めて公園や高原、名所を訪ねている。外出は入居者にとって大きな楽しみであり、ホームでは見せない表情を浮かべ別人のようになると伺った。大勢での外出時には法人内のワゴン車もしくはデイサービスの車を借りて出かけている。個人の要望があれば家族に代わり個別支援を行うこともある。	

グループホームうすだ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は自己管理できる利用様がないので、家族からホームで預かり必要時使用。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいと言う申し出があれば、いつでも対応している。電話がかかってきたら本人につなげます。手紙を書ける方はいませんが、家族から届いたら代読し喜びを共有します。」		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや浴室が少し狭い気はしますが、気をつけている。清掃に気をつけるのは勿論の事、季節感のある、花や植物を各所、ポイントに飾っている。花を生ける。季節の飾りをするなど、利用者様が楽しめるよう心がけている。	ユニット間にある広いテラスで天気の良い日にはベンチに腰をおろし歌を歌ったり、おやつや食事をすることもある。食堂兼居間は明るく、ひな壇や節句飾りなど季節ごとの飾り物や季節の花を飾って懐かしい風習や季節感を出すようにしている。ユニットがつながっているため雨や雪で外出できない時にはホーム内を行き来することで適度な運動になりそうである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に目配り、気配り利用者様が安心して落ち着けるように心がけている。。居室でくつろぎ、また、ホールでみんなと楽しむ。A棟とB棟を自由に行き来し、自分の居場所が探せる。気の合った利用者同士で会話を楽しめる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が必要なものは、家族に相談し持参してもらえるように連絡。本人が使用していた物や好きな物は持参してもらっている。居室は、居心地が良いように、思い出のある家具類や写真など飾ってある。	ベッドに横になって壁を見れば大きく引き伸ばされた家族や外出時のスナップ写真を見ることが出来る。誕生祝の色紙が年毎に並べられている。また、洋ランが窓辺に置かれていたり、女優のポスターを貼ったり、家から大事なものの沢山持ち込んでいる方など、どの居室も入居者の個性を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第1に考えて、生活しやすい空間作りに努めている。手すりも充実。ただ、A棟とB棟の通路が通りにくい。		